

予約受付期間の変更について（案）

1 趣旨

デマンド型乗合タクシー実証運行を開始して6ヶ月が経過しました。利用者アンケートでは、445人中357人(80.2%)から回答がありました。

アンケートによると利用の用途は「通院」が57%、「公共施設への移動」が19%となっています。全体の86.9%を占める65歳以上の登録者が主に通院に利用していることが分かります。

また、デマンドの悪いところを聞いたところ、「乗りたい時間に予約が取れない」という項目に201件の回答がありました。この項目について検証を行い、改善を行う必要があります。

アンケートの項目から、予約する時期は、「当日」が34%となっており、当日の予約件数により、その日の利用者人数は大きく左右されることが分かります。

また、「片道利用」は、58.8%となっています。利用者の用途の大半は「通院」であることから、往復利用を前提に予約が取りたいはずですが、実際は半数以上の58.8%が片道利用です。

そこで、実証運行期間中に、利用者の動向を把握すること及び既存の公共交通への影響度を計ることを目的に、以下のとおり予約受付期間の変更について実験することとします。

2 要因の分析

「乗りたい時間に予約が取れない」と回答があった201人は、全体回答357人の56.3%に当たり、その声の分析をすると、2つの要因が見えてきます。

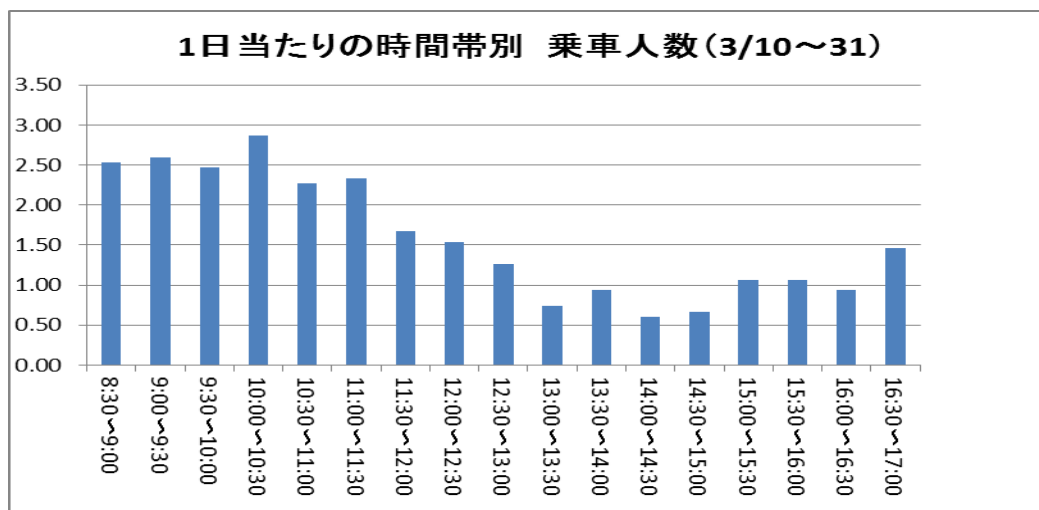
(1) 要因

① 時間帯の集中

- 乗車の多い時間帯は8時30分から11時30分にかけてとなっています。
- 午前中の行き先は、医療機関が73.9%であり、通院目的が大半であることがわかります。このため、物理的に大幅な増加は見込みにくいのが現状です。

(改善案)

- 午後の利用促進を図るなどし、ピーク時の時間帯をずらしていくことが必要です。



② 予約期間について（1時間前までの予約）

アンケートの自由意見の集計の結果、以下のような状況がありました。

「帰りの予約がしづらい」44人

「1時間以内でも予約したい」20人

（改善案）

- ・上記2点は、予約のしづらさとして同一の要因であると推察されます。利用の促進を図るには、この部分に焦点を当てる必要があります。改善するための案として、予約時間の短縮が挙げられます。

（2）懸案事項

アンケート結果からは、「片道利用の復路の手段」として「タクシー利用」が56%と回答されており、また、「予約が断られた際の代替手段」として「民間バス・タクシー」を35%が利用したと回答されています。

この状況はデマンド型乗合タクシーと既存の交通機関が共存状態になっているともいえます。共存と捉えられる現状への影響を抑えつつ、登録者全体の移動人口の底上げを図り、両者の利用者向上につなげたいと考えています。

3 提案について

（1）内容

「予約受付期間の変更」【変更前】1週間前から当日の1時間前

↓

【変更後】1週間前から当日の30分前

（2）目的

- ・通院が主な用途であるデマンド型乗合タクシーにおいて、片道利用が半数以上となっています。当初の目的である、交通弱者の移動支援としては不十分な結果ですので、より移動の支援に寄与することを目指します。
- ・4月2日現在1,223人の登録があるが、実利用者数は510人に留まっています。未乗車である700人余りがより乗車しやすい条件を整えることとします。
- ・総移動人口の底上げにより、既存の交通機関の利用促進を図ります。

（3）実施期間

平成26年5月1日（木）から平成26年6月30日（月）まで

（4）周知方法

全登録者に対し、「デマンドニュース」を発送し、変更内容について周知する。

（5）検証方法

- ・変更前と比較し、利用者数の影響度を分析する。
- ・タクシーの影響度を分析する。